

2024 年 11 月 29 日

2024 年冬のボーナスの使い道に関する調査 および大阪・関西万博の訪問意向調査について

株式会社 鹿 児 島 銀 行

株式会社 九 州 経 済 研 究 所

[調査の概要]

調 査 目 的	県民の 2024 年冬のボーナスに関する動向を調査し、卸・小売事業者や金融業などの事業活動に利用してもらうことを目的とする。
調 査 時 期	2024 年 11 月上旬
調 査 方 法	南日本新聞社の「みなみパス会員」による「みなみアンケート」(インターネット調査)
回 答 数	有効回答数 600 人(うち、ボーナス支給あり 356 人)
回 答 者 属 性	【性別】 男性 49.5% 女性 49.3% 不明 1.2% 【年齢別】 10代 0.8% 20代 2.7% 30代 18.7% 40代 13.7% 50代 26.7% 60代 27.7% 70代以上 9.7% 【地域別】 鹿児島地区 48.0% 南薩地区 8.8% 北薩地区 12.0% 姶良・伊佐地区 19.0% 大隅地区 9.8% 熊毛・大島地区 2.3%

【調査結果のポイント】

- 今冬のボーナスが前年(2023 年冬)と比較して、「増えそう」と回答した割合は全体の 30.3%だった。一方、「変わらない」は 55.1%、「減りそう」は 14.6%だった。
- 今冬のボーナスの使い道は、「生活費の補てん」(69.1%)が最多で、次いで「貯蓄・資産形成」(43.8%)、「ローン返済」(28.9%)、「旅行・レジャー費」(21.6%)と続いた。足元の物価上昇を受けてボーナスを「生活費の補てん」に充てる傾向は依然として根強い。また、前年調査と比較して「貯蓄・資産形成」「教育費」「衣料品等の購入」が減少した一方で、「ローン返済」「耐久消費財の購入」は増加した。
- 大阪・関西万博について、「ぜひ行きたい」は 4.3%、「条件が合えば行きたい」は 17.3%となり、約 2 割が訪問意向を示している。

1. 2024 年冬のボーナスの増減予想について

2024 年冬のボーナスが前年（23 年冬）と比較してどうなるか尋ねたところ、前年より「増えそう」（「増えそう」と「やや増えそう」の合計）は全体の 30.3% だった（図表 1-1）。一方、「変わらない」は 55.1%、「減りそう」（「減りそう」と「やや減りそう」の合計）は 14.6% だった。年代別にみると、「増えそう」と回答した割合が 20 代、30 代、40 代で全体平均以上となった一方、「減りそう」と回答した割合は 20 代、30 代、50 代で全体平均より高くなった。

また前年調査では「増えそう」が全体の 27.8%、「変わらない」が 60.6%、「減りそう」が 11.6% であった（図表 1-2）。前年調査と比較して「増えそう」「減りそう」との回答がいずれも 3 ポイントほど増加した。ボーナス支給状況は改善と悪化の二極化傾向が表れ、足踏み感がみられる。

2. 2024 年冬のボーナスの使い道について

2024 年冬のボーナスの使い道について尋ねたところ、「生活費の補てん」（69.1%）が最多で、次いで「貯蓄・資産形成」（43.8%）、「ローン返済」（28.9%）、「旅行・レジャー費」（21.6%）と続いた（図表 2-1）。上位 4 項目は前年調査と同じだった。ボーナスを含めた賃金は上昇傾向にあるものの、物価が高止まりしており、実質賃金増加を実感できない中で、「生活費の補てん」に充てる傾向は依然として根強い。

また、新 NISA 開始前で資産運用への関心が高まりつつあった前年の調査と比較して、「貯蓄・資産形成」が大きく減少したほか、「教育費」「衣料品等の購入」が減少した。一方で、「ローン返済」「耐久消費財の購入」は増加した。

男女別にみると、男性は「生活費の補てん」「ローン返済」と回答した割合が女性より高く、女性は「旅行・レジャー費」「理美容費」と回答した割合が男性より高かった（図表 2-2）。

また、年代別にみると、多くの年代で上位 2 項目は「生活費の補てん」「貯蓄・資産形成」となっている（図表 2-3）。

3. 大阪・関西万博について

2025 年 4 月 13 日から 10 月 13 日に開催予定の大阪・関西万博について尋ねたところ、「ぜひ行きたい」が 4.3%、「条件（タイミング、費用など）が合えば行きたい」が 17.3% となり、約 2 割が訪問意向を示している（図表 3）。年代別

にみると、男女とも 50 代以上が全体平均（21.6%）と比べて高くなっている。ただ、女性では 20 代（25.1%）も全体平均より高い。「行く予定はない」は 73.3%、「わからない」は 5.0%となった。

「ぜひ行きたい」、「条件（タイミング、費用など）が合えば行きたい」と回答した人に**行きたい理由**を尋ねたところ、「国内開催の万博だから」が 61.5%と抜きんでており、「国内では約 20 年ぶりの開催だから」「未来社会、最新技術を体験できるから」（ともに 33.1%）が続いた（図表 4）。また、「行く予定はない」と回答した人に**行く予定はない理由**を尋ねたところ、「そもそも興味がないから」が 45.5%と最も多く、「会場が遠いから」（45.0%）、「交通費、宿泊費が高いから」（36.4%）の順となった（図表 5）。

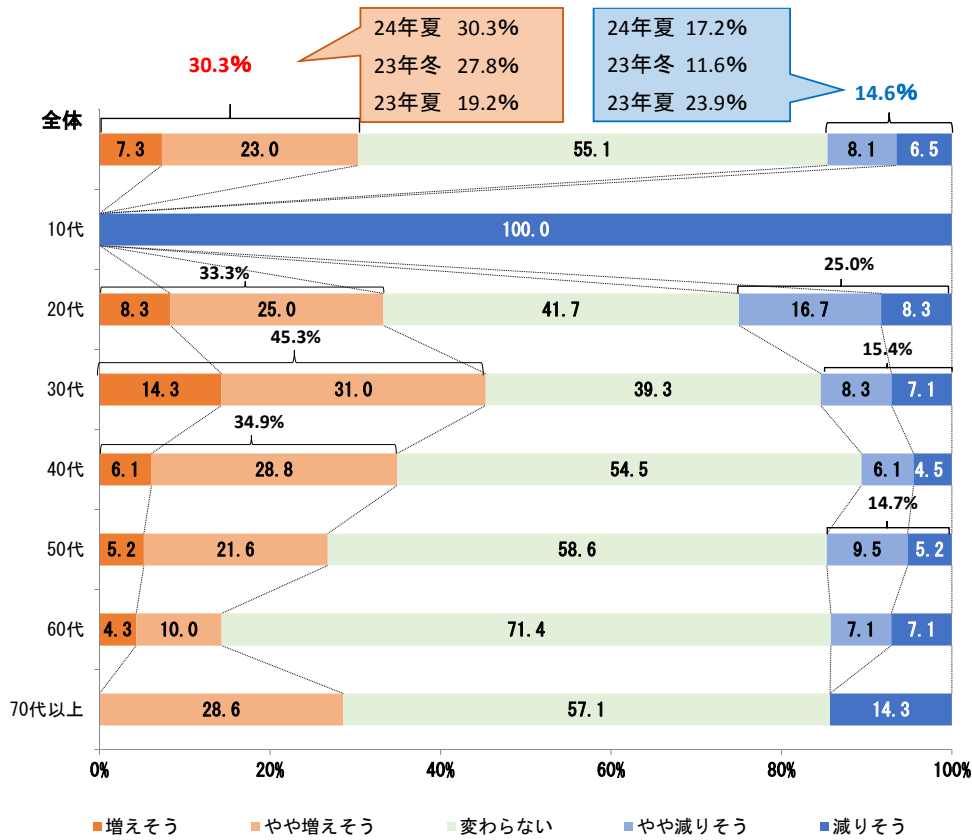
さらに、**万博効果を鹿児島に波及させるために有効な施策**としては、「大阪・関西で鹿児島の PR をする」が 50.8%と最も多かった（図表 6）。次いで「関西を訪れる外国人を鹿児島に呼び込む取り組み」（32.8%）、「関西を訪れる日本人を鹿児島に呼び込む取り組み」（26.0%）となった。

以上

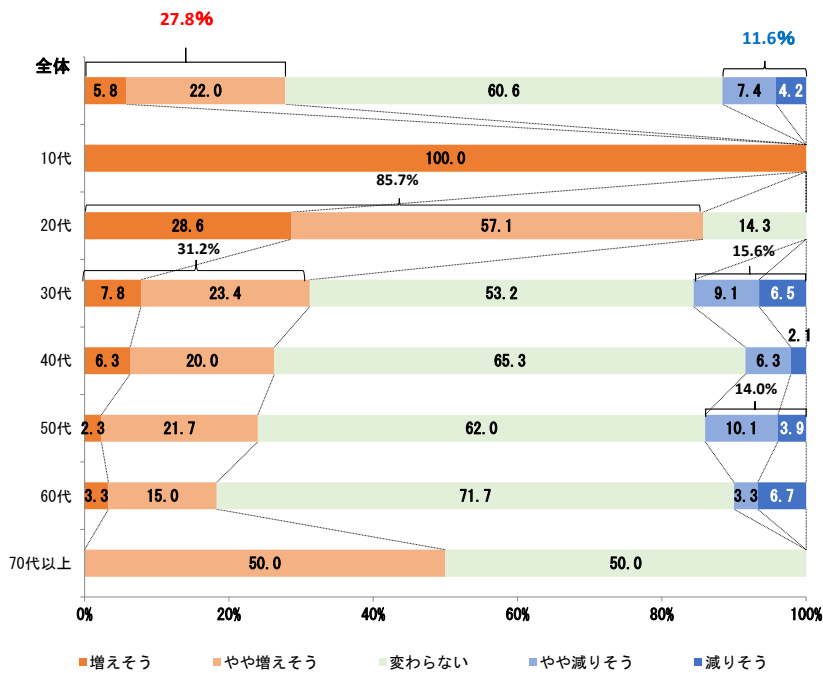
【本件に関するお問い合わせ】 ㈱九州経済研究所（TEL 099-225-7491）

【2024 年冬のボーナスについて】

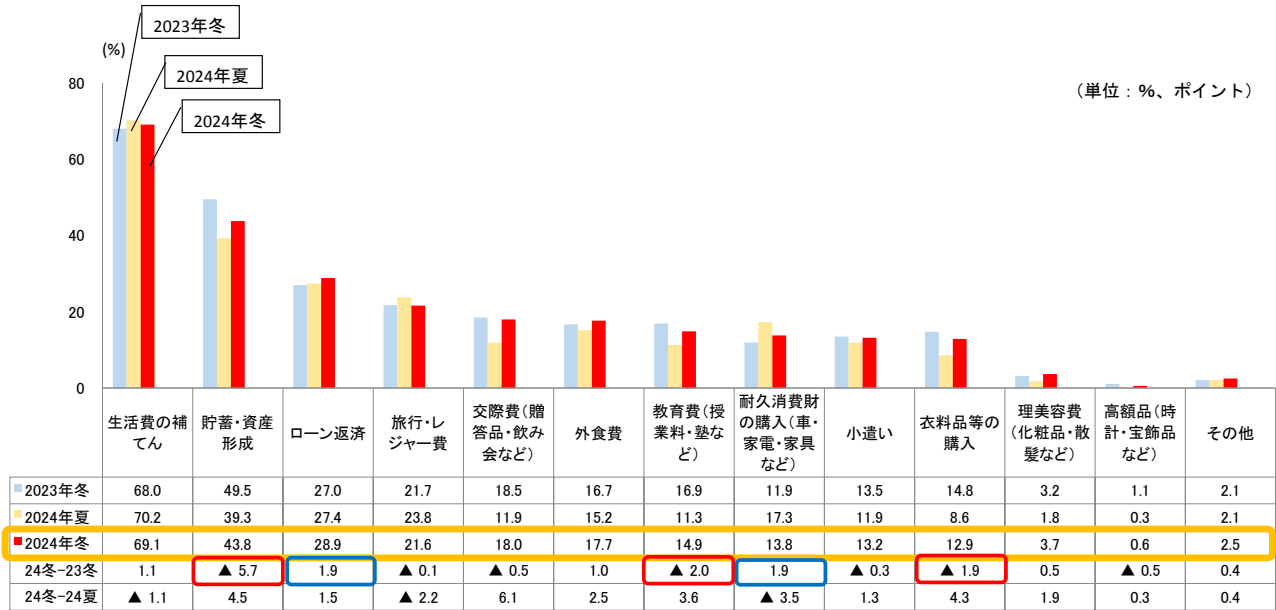
図表 1－1 2024 年冬のボーナスの増減予想（n=356）



【参考】図表 1－2（前年調査）2023 年冬のボーナスの増減予想（n=378）



図表 2-1 冬のボーナスの使い道（全体）



注）複数回答（上位 5 項目まで）、図表 2-2、2-3 も同じ

図表 2-2 冬のボーナスの使い道（男女別）

(単位：％)

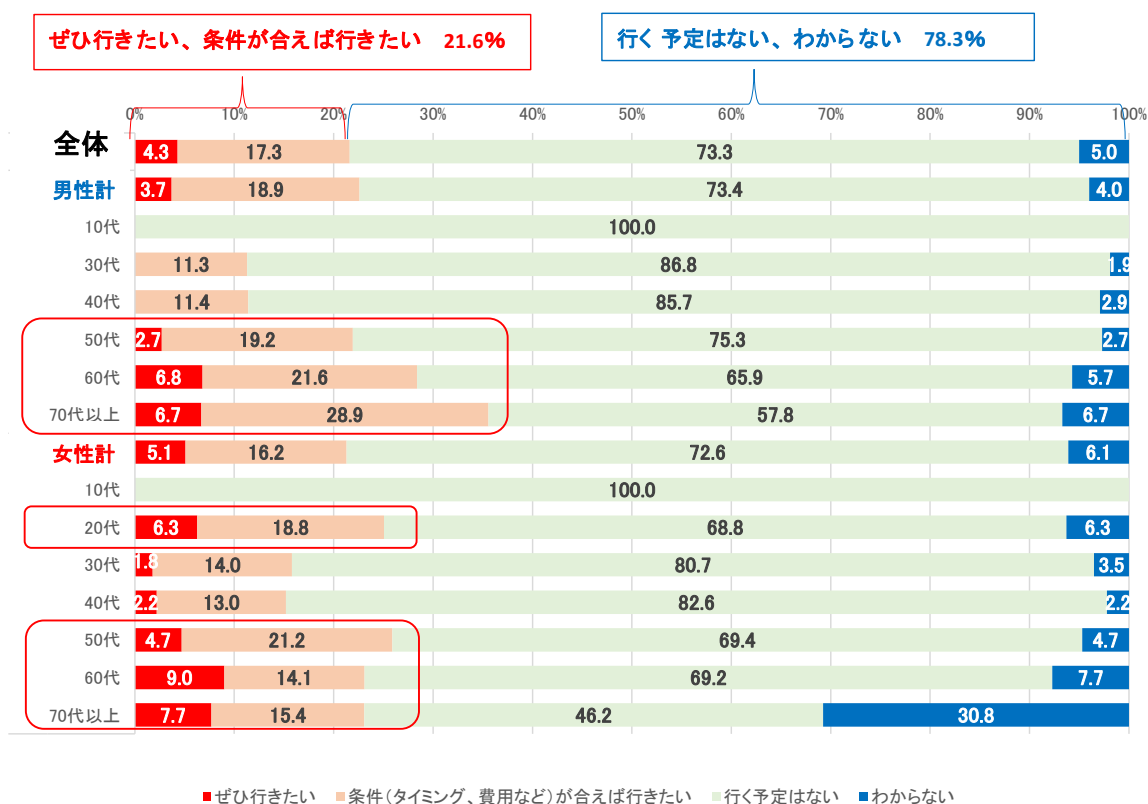
項目	全体	男性	女性
生活費の補てん	69.1	73.4	64.2
貯蓄・資産形成	43.8	43.6	44.2
ローン返済	28.9	36.7	20.6
旅行・レジャー費	21.6	19.1	24.2
交際費(贈答品・飲み会など)	18.0	17.0	18.8
外食費	17.7	19.1	15.8
教育費(授業料・塾など)	14.9	16.0	13.3
耐久消費財の購入(車・家電・家具など)	13.8	14.9	12.7
小遣い	13.2	13.8	12.7
衣料品等の購入	12.9	11.2	14.5
理美容費(化粧品・散髪など)	3.7	0.5	7.3
高額品(時計・宝飾品など)	0.6	1.1	0.0
その他	2.5	2.7	2.4

図表 2-3 夏のボーナスの使い道（年代別）

	1位	2位	3位
全体	生活費の補てん	貯蓄・資産形成	ローン返済
10代	生活費の補てん	小遣い	－
20代	貯蓄・資産形成	生活費の補てん	旅行・レジャー費
30代	生活費の補てん	貯蓄・資産形成	ローン返済
40代			
50代			外食費
60代			耐久消費財の購入、小遣い
70代以上			

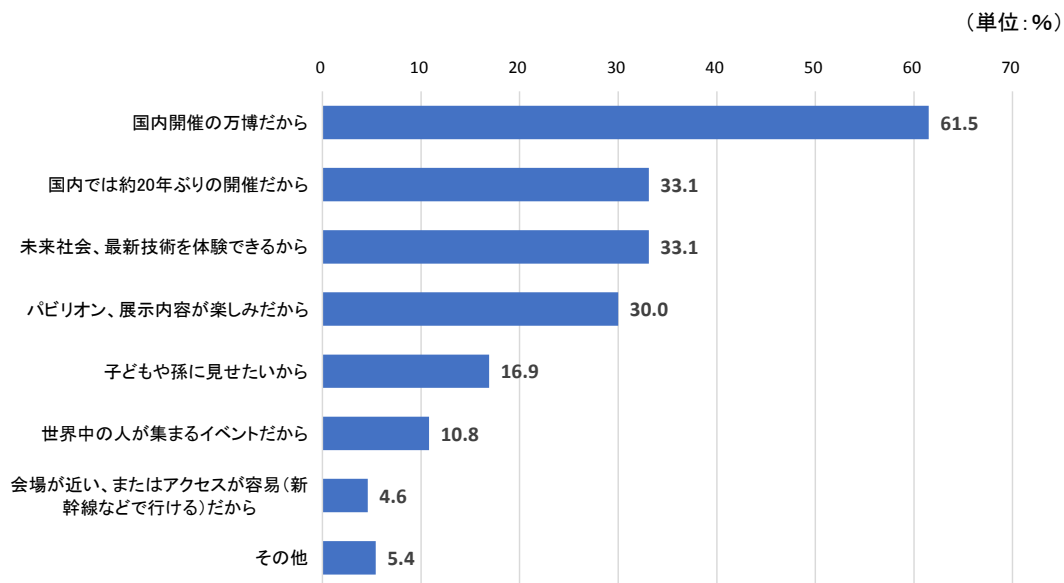
注) 10代は1位と2位が同数(回答が1件)、20代は2位と3位が同数

図表 3 大阪・関西万博について



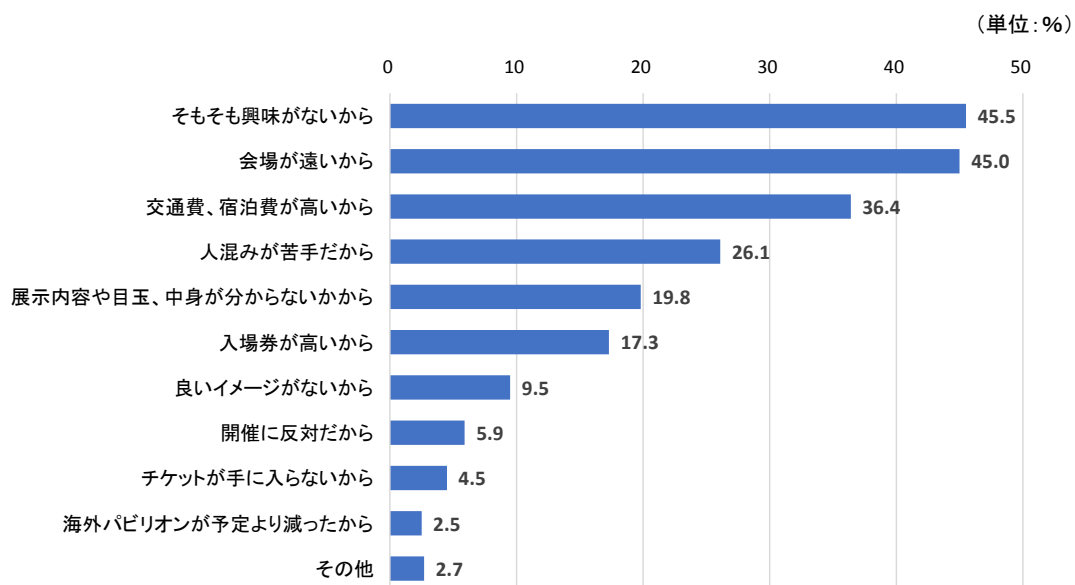
注) 20代男性は回答なし

図表 4 大阪・関西万博に行きたい理由



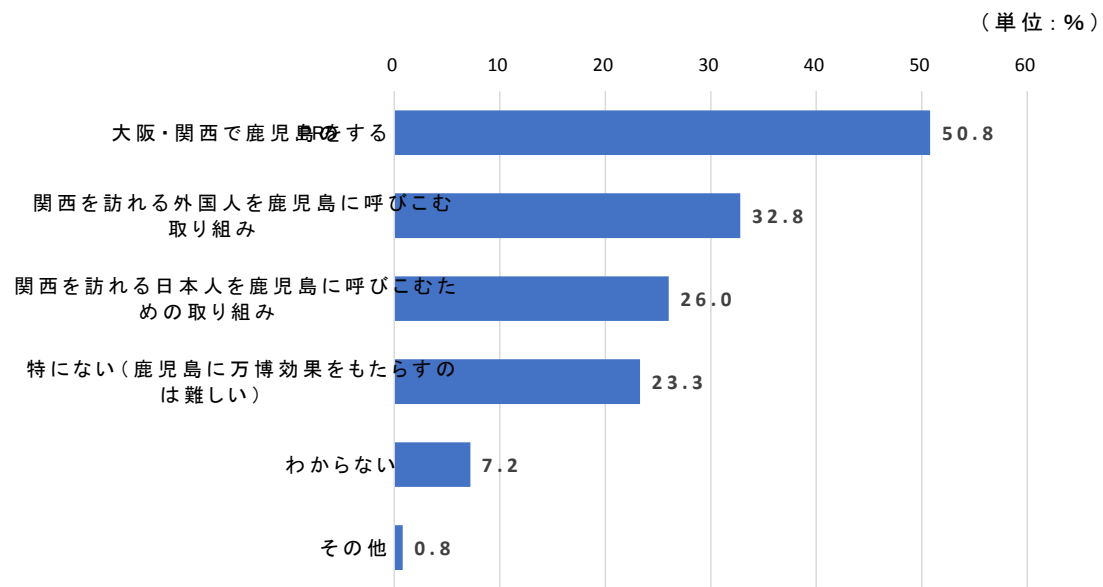
注) 大阪・関西万博に「ぜひ行きたい」「条件が合えば行きたい」と回答した方のみ回答、複数回答

図表 5 大阪・関西万博に行く予定はない理由



注) 大阪・関西万博に「行く予定はない」と回答した方のみ回答、複数回答

図表 6 万博効果を鹿児島に波及させるための施策



注) 複数回答